

# 研究計画の概要

唐津市立簗木小学校

校長 藤田 郁夫 印

1 研究主題名 主体的に考え、判断し、行動する児童の育成  
～資質・能力育成を目指した教科横断的なカリキュラム・マネジメントを通して～

## 2 研究主題設定の趣旨

私たちの社会には、環境問題、食糧問題、資源・エネルギー問題、人権と平和の問題など国境を越えての力強い連帯と賢明な調整が必要な「正解」のない難問が山積している。そこでは、一人ひとりが自立した人間として多様な他者と協働し、状況の変化に創造的に対応していく資質・能力の育成が求められている。そのため、学習指導要領総則では、教科の目標として「知識及び技能」「思考力・判断力・表現力等」「学びに向かう力、人間性等」の三つの柱を挙げて「主体的・対話的で深い学びに向けた授業改善」の視点が述べられている。

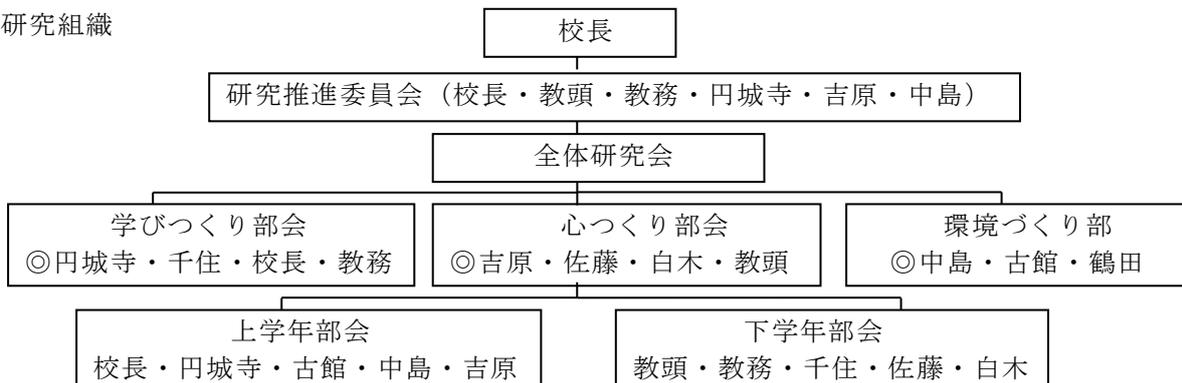
本校が育成を目指す児童像は「自ら課題を見つけ、考え、学んだことを活用しながら探究する子ども」である。そして、本校では平成28年度より4年間、各教科等における記述力の土台となる言語操作力と思考操作力を育成するために「レインボータイム」を設定し、カリキュラムと授業開発に取り組んできた。その成果として、ねらいや条件に沿った記述や読み手が分かりやすい表現・記述を意識する児童が増え、教師自身も様々な教科等で言語操作と思考操作を働かせる指導を行なうことができるようになってきた。課題としては、主体的・対話的な学びを生み出すためにより実生活に関わる学習課題を設定し、解決に向けた探究活動の成果を振り返って次の学びにつなげる工夫、言語操作力・思考操作力と各教科の知識・技能等を関連付けて深い学びへつなげる手立ての構築が挙げられる。

そこで、学習指導要領の実施初年度に当たる研究一年次は、育成すべき資質・能力を総合的に活用・発揮される教科横断的な教育課程を実施し、単元構想・授業作りの実践を通して教育活動の質の向上を図るカリキュラム・マネジメントを行っていく。

具体的には、これまで培ってきた言語操作力と思考操作力を、学習の基盤となる資質・能力として学習指導要領総則に示された「言語能力」「情報活用能力」「問題発見・解決能力」として再構築し、「資質・能力」「学習活動」「学習内容」を関連付け、単元や時間のまとまり、重点の置き方に工夫をして教育課程を整理する。そして、合科的・関連的な単元の中で各教科の見方・考え方や知識・技能をつなげて思考・判断・表現に活かす場面を効果的に設定した授業作りを行っていく。さらに、特別活動の各活動・学校行事等においても他者と対話しながら学びを活用し、実生活での行動化を生み出す工夫をし、学びの可視化や検証を通してPDCAサイクルの確立を図る。

資質・能力育成を目指した教科横断的なカリキュラム・マネジメントを通して、課題解決に向け見通しをもって追求し、次の学びや実生活に活かす主体性と、自らの考えを広げ深める力の育成を図っていきたいと考え、本主題を設定した。

## 3 研究組織



## 研究の目標

課題解決に向け見通しをもって追求し、次の学びや実生活に活かす主体性と、自らの考えを広げ深める力を育成するために、資質・能力育成を目指した合科的・関連的単元を構想し、各教科等の見方・考え方や知識・技能を効果的に活用・発揮させる授業実践を通してカリキュラム・マネジメントの在り方を探る。

## 研究の仮説

学んだ各教科の見方・考え方や知識・技能が効果的に活用・発揮できるように、合科的・関連的単元を構想して授業実践を行えば、課題解決に向け見通しをもって追求し、次の学びや実生活に活かす主体性を持ち、自らの考えを広げ深めようとする児童を育成することができるであろう。

## 4 研究内容

### (1) 学習指導要領を踏まえた理論研究

- ア 全体研修会や上・下学年部会、3部会（学びづくり・心づくり・環境づくり部会）での理論研究
- イ 講師招聘による全体研修会
- ウ 研究発表会への参加，教育センター講座受講，先行研究校の研究紀要活用，書籍等による研究

### (2) 教科横断的な視点で各教科の指導内容を体系化し、育てたい資質・能力を総合的に活用・発揮される場面を設定した授業の実践と検証

- ア 育てたい資質・能力と各教科の見方・考え方・学習活動・学習内容の関連付け・整理
- イ 資質・能力を総合的に活用・発揮される授業実践とワークシートのストック化
- ウ 授業実践を集約し、成果と課題を分析し、改善して次のまなびへつなげるPDCAサイクルの実施
- エ 児童の実態把握，児童の意識調査の結果（7月・12月）の分析・検証

### (3) 特別活動の各活動，学校行事等において，学びを活用・発揮する場面を工夫することで実生活での行動化へつなげる主体性を育む実践と検証

- ア 特別活動の各活動，学校行事等によって育てたい資質・能力と学習活動・活動内容の整理
- イ 教育活動の集約，成果と課題の分析
- ウ 児童の変容など教育活動の効果を検証するアンケートの実施・分析

### (4) 児童の学びを可視化し，次の学びへつなげる学習環境づくりと地域・保護者への情報発信

- ア 児童が学習活動を自ら振り返り価値づけした学びの成果物の校内掲示
- イ 児童の生活時間改善や家庭学習習慣作りに向けての取り組み
- ウ 育てたい資質・能力の共有化や家庭学習習慣作りへ向けて家庭との連携を目指し，学びの成果物の紹介などを定期的に情報発信する地域・保護者への広報活動

## 5 期待される成果

### (1) 学習指導要領を踏まえた理論研究を行い，職員の共有理解を深めることで，資質・能力育成を目指した合科・関連的単元構想や授業実践と検証に取り組む教師が増え，教科横断的なカリキュラム・マネジメントを推進することができる。

### (2) 教科横断的な視点で各教科の指導内容を体系化し，育てたい資質・能力を総合的に活用・発揮される場面を設定した授業実践と検証を通して，課題解決に向け見通しをもって追求し，次の学びや実生活に活かす主体性をもち，自らの考えを広げ深める児童の姿が見られる。

### (3) 特別活動の各活動，学校行事等において，学びを活用・発揮する場面を工夫することで実生活での行動化へつなげる児童の姿が見られる。

### (4) 児童の学びを可視化する学習環境づくりと地域・保護者への情報発信を行うことで，自らの学びを価値付けして次の学びへつなげようとする児童の主体性を育み，地域・保護者との連携を図ることができる。